

TOPIC

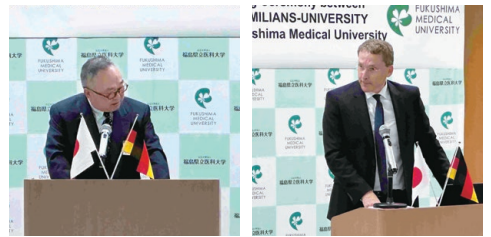
ドイツ・ユリウス・マクシミリアン大学ヴュルツブルク (ヴュルツブルク大学)医学部と大学間協定を締結しました

本学は10月19日(木)、新たにドイツ・ユリウス・マクシミリアン大学ヴュルツブルク(ヴュルツブルク大学)医学部と大学間協定を締結しました。

ヴュルツブルク大学は、近代医学を日本に伝えたシーボルトの出身大学で、X線を発見したレントゲンを始めとして多数のノーベル賞受賞者を輩出したドイツで最も歴史ある大学の1つです。

ドイツは、核医学分野の先進国として高く評価されており、ヴュルツブルク大学と核医学分野で共同研究できることは、各種疾病の早期診断や放射性薬剤の研究開発など、本県の復興を医療の面から支える本学にとって、大変有意義なものです。

東日本大震災に引き続き発災した東京電力福島第一原子力発電所事故以降、本学はWHO-REMPAN(国際緊急被ばく医療ネットワーク)のメンバーとして、ヴュルツブルク大学と国際会議の場などで専門家交流を続けてきました。本年3月には、本学先端臨床研究センターと核医学分野に関する交流を行い、



WHO-REMPAN活動に加えて、先端核医学分野で共同研究の推進を図ることで合意し、原子力災害医療の連携協力と共に交流協定を締結する運びとなりました。

また、本年4月に開設した福島国際研究教育機構(F-REI)の第4分野「放射線科学・創薬

医療」と第5分野「原子力災害に関するデータや知見の集積、発信」の両分野への貢献を目指す本学にとって、これまで得られた経験と知見を世界に向けて発信・共有する上でヴュルツブルク大学は大変重要なパートナーになるものと期待されています。

TOPIC

株式会社チューニングフォーク・バイオ・ジャパンに対し「福島県立医科大学発ベンチャー」の称号を授与しました

本学医療・産業トランスレーショナルリサーチセンター(以下、TRセンター)は、令和5年10月1日付で株式会社チューニングフォーク・バイオ・ジャパンに対し第6号となる「福島県立医科大学発ベンチャー」の称号を授与しました。

同社が展開する抗体プロファイリングによる診断サービスは、本学で達成された研究成果等の活用による事業化であることから本称号の授与に至りました。

また、同社の祖父会社に当たるヤマハ発動機株式会社とTRセンターでは、共同研究下で行ったタンパク質マイクロアレイ解析の結果から得られた研究成果である2件の特許を共同出願中です。

今後、本学を代表する独自技術の一つであるTRセンターのタンパク質マイクロアレイ解析の受託について、チューニングフォーク・バイオ・ジャパン社は米国法人である親会社を通



じて事業展開する予定であり、TRセンターの独自技術への需要が、国内外において大幅に拡大する可能性があります。

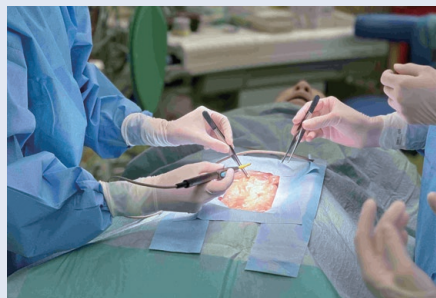
会津医療センターで医療従事者体験セミナーを開催しました

令和5年10月14日(土)、会津医療センターは、中学生・高校生を対象に、医療従事者の仕事について深く知ってもらうことを目的として同センター附属病院にて「医療従事者体験セミナー」を開催しました。

今回のセミナーでは、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、管理栄養士、理学療法士・作業療法士、臨床工学技士の8つの体験コースを設け、参加者約40名はそれぞれ

希望するコースを体験しました。

医師コースでは、実際の手術と同じ衣装や電気メスなどの機器を用いて手術手技体験を、臨床工学技士コースでは、手術の準備体験などを行いました。また、看護師コースでは血圧計を用いて血圧を測定したり、心電図のモニター取り付けなどを体験しました。



International exchange

国立台湾大学医学部附属病院、栄民総醫院からの視察団が来学しました



令和5年10月11日(水)、国立台湾大学病院医師2名、栄民総醫院医師・看護師6名が、緊急被ばく医療の連携強化の為に本学を視察に訪れました。

国立台湾大学医学院(以下、台湾大学)は台湾屈指の総合大学であり、世界的な評価が高い大学です。台湾大学と本学は、令和4年12月29日、台湾大学において学术交流協定を締結していましたが、今回の視察は、協定締結後初の来学となりました。また栄民総醫院は、台湾初の重粒子線治療装置を導入するなど台湾に於ける放射線・核医学治療を牽引しています。

東日本大震災・福島第一原子力発電所事故以降、両校とは原子力災害医療人材の相互交流が続いていますが、中でも台湾大学病院の鄭銘泰

(Ming-Tai)救急・災害医療主任医師は、2012年初めて本学を訪問した台湾の原子力災害医療の中心的人物であり、核医学の先生らと連携して台湾における被ばく医療のネットワークを構築しています。

視察団は、本学の放射線災害医療センターと先端臨床研究センターを重点的に視察し、具体的な共同研究について議論を行いました。特に、放射線災害医療学講座長谷川有史主任教授が開発したバーチャル画面を通じた実習など新たな体験をされました。今後、原子力災害医療と核医学の両分野での連携強化を進めていく予定です。

NEWS01 令和5年度福島県立医科大学 白衣式を挙行了しました

令和5年10月20日(金)、本学講堂において「白衣式」が挙行され、竹石恭知附属病院長より医学部4年生126名一人ひとりへ大学の校章と氏名が刺繍された白衣が授与されました。

「白衣式」は、医師を目指す者としての心構えを新たにし、自覚を持って臨床実習に臨んで

もらうことを目的に行われます。学生たちは、10月23日(月)から、72週間にわたり本学附属病院等で実際に患者さんに接しながら医学を学ぶ臨床実習(BSL)をスタートさせました。

医師への道を歩む決意を新たに、真剣な眼差しの臨床実習生に期待がかかります。



NEWS02 第74回福島県立医科大学 解剖慰霊祭を挙行了しました

令和5年10月25日(水)、本学講堂において「第74回福島県立医科大学解剖慰霊祭」を挙行了しました。

医学教育、学術研究の進展のため、本学では系統解剖(学生の教育のため、人体の正常な形態と構造を解明するもの)、病理解剖、法医

解剖を行っています。その尊い御遺体を捧げた故人の徳を偲び、御霊の冥福を祈るため、御遺族、来賓を招き、教職員、学生の出席のもとに、毎年秋に解剖慰霊祭を執り行っています。

本年度も御遺族、御来賓の皆様とともに、教職員、学生一同、お供えをいたしました御霊



276柱に謹んで哀悼の意を表し、御霊のご冥福をお祈りいたしました。

NEWS03 ピンクリボンマルシェに参加しました

令和5年10月8日(日)、エスバル福島で開催された「ピンクリボンマルシェ」(福島県健康づくり推進課主催)に、本学医学部乳腺外科講座の立花和之進講師が参加しました。

学生ボランティアとして参加している福島学院大学の学生の皆さんと一緒に、乳がん検診の早期受診や、がんの早期発見の重要性について、来場者に呼びかけました。

